

Makita

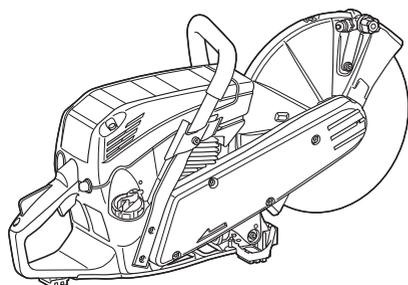
取扱説明書 エンジンカッタ

モデル EK6100



もくじ

国内排出ガス自主規制について	2
シンボルマークについて	3
エンジン製品の安全上のご注意	4
エンジンカッタの安全上のご注意	10
各部の名称	17
標準付属品	18
別販売品のご紹介	19
ご使用前の準備	20
・刃物（別販売品）の取り付け方・取りはずし方	
運転を始める前に	23
・燃料	
・燃料の残量確認方法	
・スイッチの操作	
・エンジン始動方法	
・停止・ロック	
・ホイールカバーの調整	
・ウォータセットアタッチメント	
作業方法	31
保守・点検について	32
・Vベルトの張り調整	
・Vベルトの取り替え	
・燃料タンクフィルタの清掃と取り替え	
・フィルタの清掃と取り替え	
・スパークプラグの点検と整備	
・アイドル調整	
・スタータの清掃	
・メンテナンス表	
・格納方法	
・本機の保管姿勢	
故障かな？と思ったら	45
・ご修理の際は	
主要機能	48



このたびはエンジンカッタをお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。



国内排出ガス自主規制について



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。

本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧いただけます。

<http://www.lemma.or.jp/>

シンボルマークについて

製品および取扱説明書にシンボルマークを掲載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。



取扱説明書をよくお読みいただき内容を十分ご理解の上ご使用ください。



通気の悪い場所では運転しないでください。



チョーク、運転、停止、ロック切替スイッチ。



混合燃料



エンジンを停止してください。



保護具を着用してください。



燃料の混合、給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。



燃料の混合、給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。

- ・引火、火災、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「エンジン製品の安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ご使用前に、この「エンジン製品の安全上のご注意」をすべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- ・お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ・ほかの人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

注意文の  **警告** ・  **注意** ・  **注** の意味について

ご使用上の注意事項は  **警告** と  **注意** ・  **注** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

警告

: 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意

: 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお  **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

: 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

エンジン製品の安全上のご注意

⚠ 警告

- 1** ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
・ 本機の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。



- 2** 絶対に安全装置を取りはずしたり、改造したりしないでください。
・ 事故やけがの原因になります。

- 3** 事故の原因になります。次のときは本機を使用しないでください。
・ 疲れているとき、身体が不調なとき。
・ 酒類や薬物を飲んで正常な運転操作ができないとき。



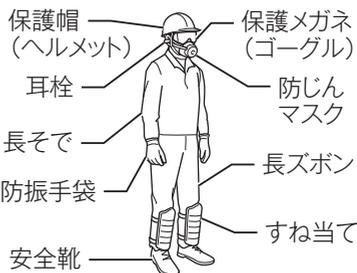
- 4** 使用時は常に防振手袋、保護メガネ、耳栓、保護帽（ヘルメット）を着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
・ けがの原因になります。

また手ぬぐいやタオルを首から提げて作業しないでください。

袖や裾の締まりのよい服装をしてください。

- ・ 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

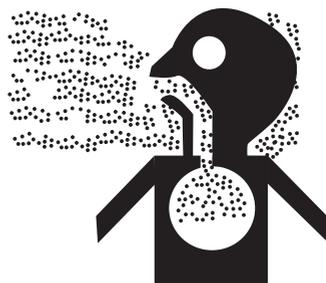
身体を冷やさないような服装で作業してください。



⚠ 警告

- 5** エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で、使用しないでください。

- ・ 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。



- 6** 作業場は十分明るくしてください。

- ・ 暗い場所での作業は事故の恐れがあります。

- 7** 雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。

- ・ 転倒して、けがの原因になります。



- 8** 燃料の取り扱いには十分注意してください。

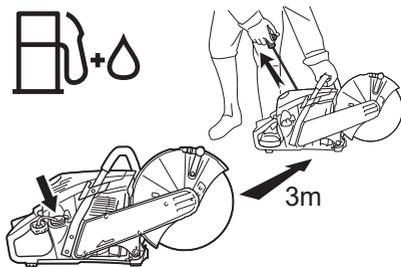
- ・ 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

エンジン製品の安全上のご注意

⚠ 警告

9 引火、火災の恐れがあります。

- ・燃料の持ち運びや保管、取り扱いには十分注意してください。
- ・燃料の給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、通気のよい場所で行いタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。
- ・燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
- ・燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも 3 m 以上離れてください。
- ・ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のあるものの近くでは、使用しないでください。
- ・マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。



10 始動時および使用中には、スパークプラグやプラグコードに手を触れないでください。

- ・感電する恐れがあります。

11 使用中、本機の調子が悪かったり、異常音が発生したりするときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止し、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所に点検・修理をお申し付けください。

- ・そのまま使用していると、けがの原因になります。

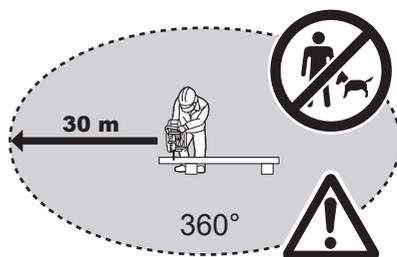


エンジン製品の安全上のご注意

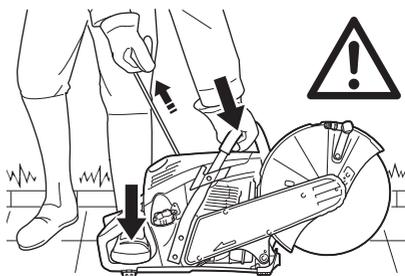
⚠ 注意

- 1 損傷した部品がないか点検してください。
 - ・使用前にネジのゆるみがないか、損傷した部品がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
- 2 レンチなどは、必ず取りはずしてください。
 - ・付けたままでは飛び出して、けがの原因になる恐れがあります。
- 3 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規制があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。

- 4 エンジンを始動させる前に、半径 30 m 以内にほかの人や動物などがいないことを確認してください。特に子供やペットが近くにいるときは、半径 30 m にかかわらず使用しないでください。
 - ・不用意にほかの人や動物などを近づけると事故の原因になります。



- 5 エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
 - ・事故の原因になります。



- 6 付属品および交換される部品は、必ず指定されたマキタ純正品をご使用ください。
 - ・マキタ純正部品以外のものを使用されますと、事故やけがの原因となる恐れがあります。

エンジン製品の安全上のご注意

⚠ 注意

- 7** 使用を中断したり、移動したりするときは必ずエンジンを停止させてください。また、エンジンをかけたまま放置しないでください。

・ エンジンをかけたままですと、事故の原因になります。



- 8** 使用時およびエンジン停止直後は、マフラなどの高温部に身体が触れないように注意してください。

・ やけどの原因になります。

- 9** スパークプラグ点検整備時、シリンダ内の残留ガスに引火する場合がありますので、スパークプラグ取り付けネジ部にはスパークプラグを接触させないでください。

また、スパークプラグの金属部に触れながらスタータハンドルを引かないでください。

・ やけどの原因になり、また感電する恐れがあります。

- 10** 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。

・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。



- 11** 長時間ご使用にならないときは、燃料を全部抜き乾燥したきれいな場所に格納してください。

- 12** いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

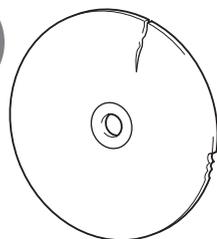
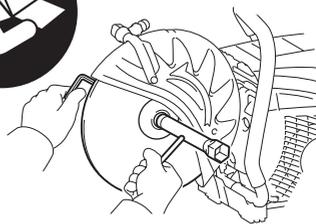
・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと事故やけがの原因になります。

- 先にエンジン製品としての共通事項を述べましたが、エンジンカタとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

切断作業に関する注意事項

- 1** ホイールカバーは必ず付けて使用してください。
 - ホイールカバーは作業への最大限の安全を確保するために配置しています。ホイールカバーを取り付けずに使用すると、破損した刃物の破片や刃物との不測の接触によりけがの原因になります。
- 2** 本機はダイヤモンドホイール専用機のため切断砥石は使用できません。
 - 最高周速度 80 m/s 以上のダイヤモンドホイールを使用してください。
- 3** 指定以外の刃物（丸ノコ刃、チップソー、切断砥石など）での切断作業はしないでください。
 - 丸ノコとしての保護装置がなく、けがの原因になります。
- 4** 刃物類や付属品は取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
 - 確実にないとはずれるなど、けがの原因になります。
- 5** 刃物にひび、割れなど異常がないことを確認してから使用してください。
 - 異常があると刃物が破損し、けがの原因になります。



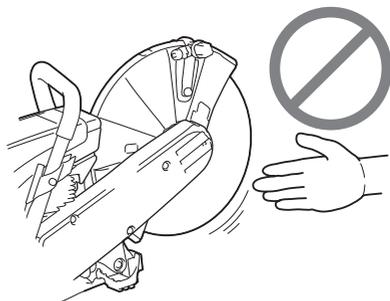
エンジンカッタの安全上のご注意

⚠ 警告

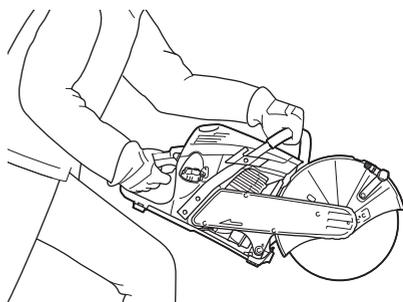
- 6** 内径がΦ 20 の刃物を使用するか、内径がΦ 20 より大きい刃物を使用してください。内径がΦ 20 より大きい場合は、リング 20 を使用して刃物が偏心しないように取り付けてください。
- ・ 内径がスピンドルと合致しない刃物を使用すると偏心し、制御不能に陥る原因になります。

- 7** 破損またはサイズが合わない締め付けボルトやフランジなどを使用しないでください。
- ・ 締め付けボルトやフランジなどは、製品の最適な性能および作業者の最大の安全を確保するために特別に設計されています。

- 8** 回転している刃物類に手や顔、衣服などを不用意に近づけないでください。
- ・ けがの原因になります。



- 9** 本機は両手で確実に保持してください。
- ・ 確実に保持していないとけがの原因になります。



- 10** 使用時は、本機のリヤハンドルを右手、フロントハンドルを左手でしっかりと保持してください。片手持ち作業、腕を伸ばしての操作は行わないでください。
- ・ 本機の適格な操作やコントロールができず、けがや事故の原因になります。

エンジンカッタの安全上のご注意

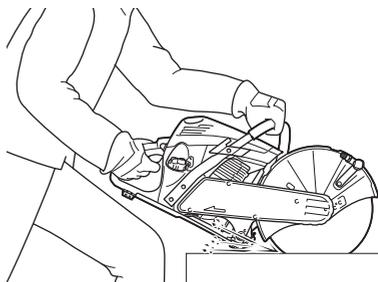
⚠ 警告

- 11** 切断中に本機をこじたり、強く押さえたり無理な操作をしないでください。

・ 本機に強い反発力が生じたり、刃物が破損したりし、けがの原因になります。

- 12** 切断粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷つきやすいものは、遠ざけてください。また切断火花を直接手足などに当てないようにしてください。

・ 引火や火災、やけどの原因になります。



- 13** 誤って落としたり、ぶつかけたりしたときは、刃物や本機などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

・ 破損や亀裂、変形があると事故の原因になります。

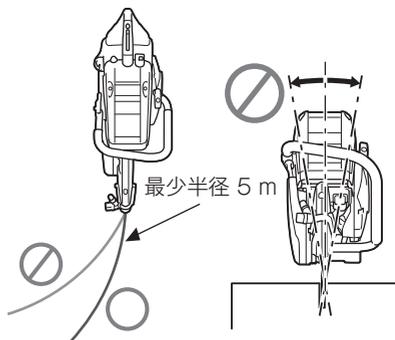
- 14** 刃物の側面で研削しないでください。

・ 刃物が破損する原因になります。



- 15** 弧を描くように切断される際は、最小半径 5 m を守ってください。また、刃物を傾けないでください。

・ 無理に小さい半径で切断を行ったり、刃物を傾けて使用したりすると、刃物が破損する恐れがあり、けがの原因になります。



エンジンカッタの安全上のご注意

⚠ 警告

- 16 切断する材料の下には手や足などを入れないでください。
 - ・材料の下は安全カバーで保護されないため、けがの原因になります。
- 17 切断する材料を決して手で持ったり足で押さえたりしないでください。切断する材料は、安定した台に固定してください。
 - ・刃物への手足の露出や、後述する「キックバック」を防ぐには、材料を適切に固定することが大切です。
- 18 エンジンを始動させる前に、刃物類が地面やその他障害物に触れていないことを確かめてください。
 - ・刃物類が地面やその他障害物に触れていると事故の原因になります。
- 19 エンジンが始動すると同時に刃物が回転します。周囲の人や障害物に十分注意してください。
 - ・けがの原因になります。

キックバックの原因と対策

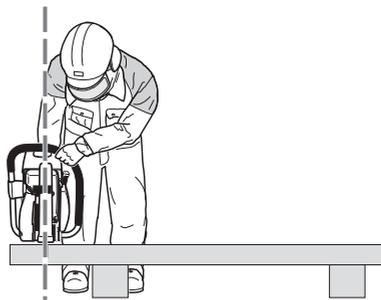
刃物が材料に噛んだり偏心したりしたときに、反動で本機がせり上がり、作業者に向かってくることがあります。これを「キックバック」と言います。

刃物が切り口に強くはさまれて止められると、モータの反動で本機が作業者に向かって急激に押し返されます。

切断中に刃物がひねられたり偏心したりすると、刃物後端の歯が材料表面をけり、刃物が切り口から飛び上がって作業者に向かってはね返ります。

キックバックはエンジンカッタの誤使用が引き起こします。以下は「キックバック」によるリスクを最小限にするための注意事項です。

- 1 切断の際は本機をしっかりと保持し、キックバックに耐えられるように腕を備えてください。また、切断線と一直線にならないように身体を本機の左側に避けて位置してください。



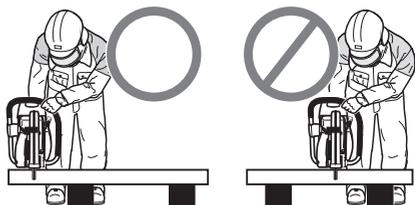
エンジンカッタの安全上のご注意

⚠ 警告

- 2** 刃物が切り口にはさまったり、何らかの理由で刃物が止まったりした際は、スイッチを切って刃物が完全に停止するまで本機を動かさず保持してください。刃物が動いている間は、刃物を切り口からはずしたり、本機を後ろに引いたりしないでください。
- ・ 刃物が動いている間に切断方向以外に本機を動かすと、キックバックを招きます。
 - ・ 刃物が完全に停止してから、刃物のはさまった原因の確認と対処をしてください。

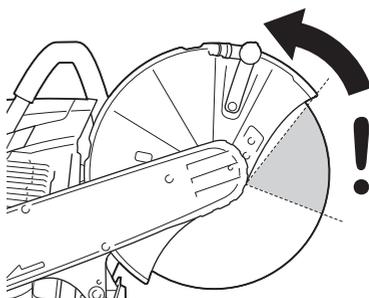
- 3** 刃物が材料の中にあつて本機を再始動するときは、刃物が材料と噛み合っていないことを確認してください。
- ・ 刃物が噛み合っていると、本機を再始動したときにキックバックが起きます。

- 4** 面積の広い材料を切断するときは、材料の両端と切断部分の近くを固定してください。
- ・ 両端と切断部分を支持することで、材料が自重でたわむのを防ぎ、キックバックを減らせます。



- 5** 損傷や摩耗の激しい刃物は使用しないでください。
- ・ 鋭利でない、または正しく取り付けられていない刃物を使うと、切り口が狭くなり、摩擦で刃物のはさまれたり、キックバックを招きやすくなります。

- 6** 刃物の先端側で切断しないでください。(右図参照)
- ・ キックバックを招く恐れが高く、けがの原因になります。



エンジンカッタの安全上のご注意

⚠ 警告

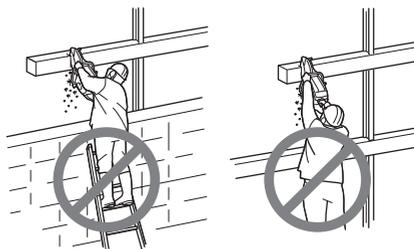
7 切り込みの際は最高速度に達してから切り込んでください。また、切断中は速度をゆるめずに最後まで切断してください。

- ・ 切断中に速度をゆるめると、刃物が材料にはさまれやすくなります。

その他の注意事項

1 本機は、地上の安定した場所で使用してください。はしごに登って作業するなど、不安定な姿勢で使用しないでください。

- ・ けがの原因になります。



2 本機を肩の高さより高い位置で使用しないでください。

- ・ けがの原因になります。

3 作業前に必ず、スロットルレバーの誤作動を防ぐ安全装置（ロックオフレバー）が確実に作動することを確認してください。

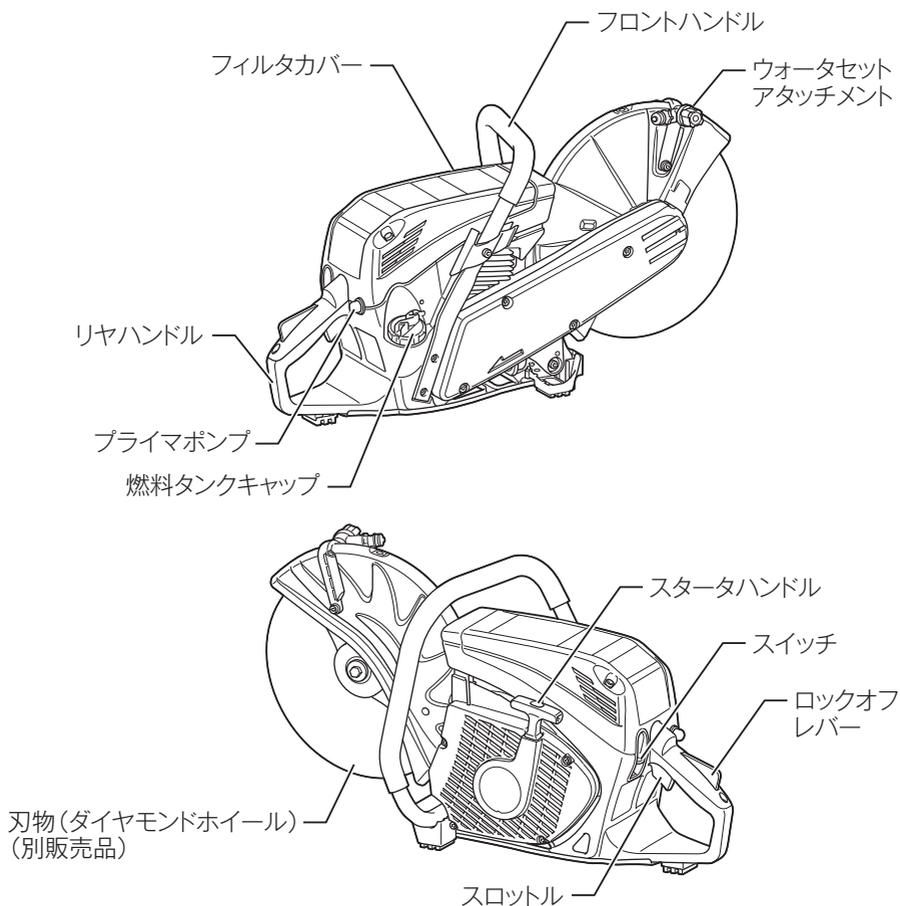
- ・ 安全装置が作動しないとけがの原因になります。

エンジンカッタの安全上のご注意

⚠ 注意

- 1** 試運転を励行してください。
試運転時間は、(その日の作業始めのとき…1 分間以上) です。
 - ・ 試運転せずに作業を開始すると思わぬ事故の原因になります。
- 2** 切断直後の金属材料は高温になっていますので、触れないでください。
 - ・ やけどの原因になります。
- 3** 作業前に、人のいない方向に刃物に向けて空転させ、本機の振動や刃物の振れなどの異常がないことを確認してください。
 - ・ 異常があるとけがの原因になります。
- 4** 使用中は、軍手などの巻き込まれる恐れのある手袋は使用しないでください。
- 5** 切断しようとする材料の前方に手を置かないでください。
 - ・ けがの原因になります。

各部の名称



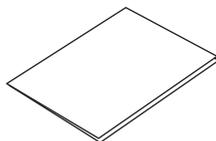
標準付属品



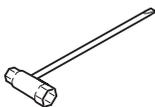
リング20
(外径): Φ 22
 Φ 25.4
 Φ 30.5



保護メガネ



取扱説明書



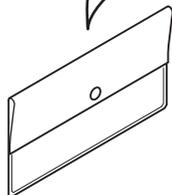
ユニバーサルレンチ13-19



トルクスレンチ



マイナスドライバ



アクセサリバッグ

- ・ マキタ純正 2 ストローク専用エンジンオイル

別販売品のご紹介

・ 刃物

タイプ / 用途		寸法 (mm)					部品番号
		外径	厚み	高さ	内径	リング 内径	
ダイヤモンド ホイール	コンクリート用 レーザーブレード	305	2.8	5.5	30.5	20, 22, 25.4	A-57582
		305	2.8	6.5	30.5	20, 22, 25.4	A-36382
	アスファルト用	305	3.0	8	25.4	22	A-03470
	金属溶着 ダイヤモンド ホイール	305	3.2	8	30.5	22, 25.4	A-36631
	正配列 レーザーブレード	305	2.8	9.7	30.5	20, 22, 25.4	A-53861
		305	2.8	9.7	25.4	22	A-53528
	正配列 ターボレーザー	305	2.8	12	30.5	20, 22, 25.4	A-51035

ご使用前の準備

刃物（別販売品）の取り付け方・取りはずし方

⚠ 警告

刃物の取り付け、取りはずしを行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

- ・ エンジンをかけたまま行くと、不意に刃物が回りだす恐れがあり、事故の原因になります。
- ・ エンジンを停止した直後は、エンジンが高温となっているため、不用意に触るとやけどの原因になります。

外径Φ 305 mm 以外の刃物は使用しないでください。

刃物を取り付けるときは、本機に付いている矢印と刃物に付いている矢印の方向を合わせてください。

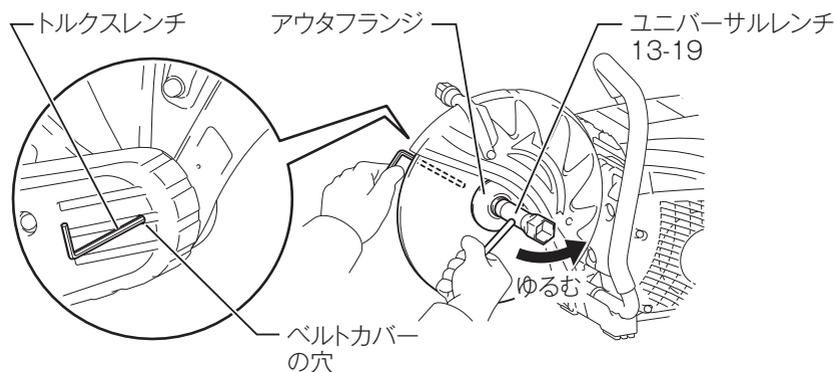
- ・ 矢印に合わせないと、刃物の回転方向が逆回転となり、刃先を傷め、けがの原因になります。

刃物を取り扱うときは、手袋を着用してください。

- ・ けがの原因になります。

■ 刃物（別販売品）の取り付け方

1. ベルトカバーの穴にトルクスレンチを挿し込み、軸を固定します。
2. この状態でユニバーサルレンチ 13-19 を使って、締め付けボルトを左に回して締め付けボルト、アウトフランジをはずします。



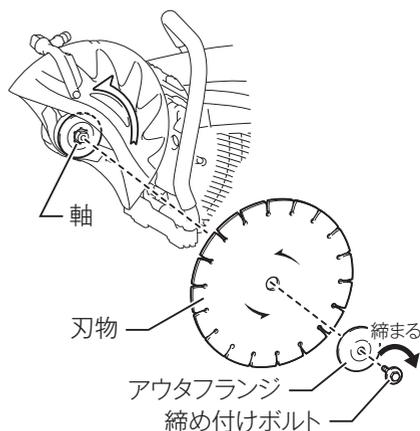
ご使用前の準備

3. 刃物を取り付けます。

■ 内径Φ20の刃物を使用する場合

刃物を軸にはめ込み、軸とアウトフランジの切り欠き部を合わせ、締め付けボルトをしっかりと締め付けてください。

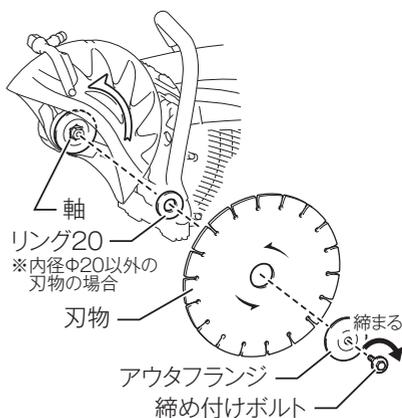
締め付けトルクは 28 ~ 32 N・m



■ 内径Φ20以外の刃物を使用する場合

刃物の内径に合った付属のリングを軸にはめ込んだ後、刃物を軸にはめ込み、軸とアウトフランジの切り欠き部を合わせ、締め付けボルトをしっかりと締め付けてください。

締め付けトルクは 28 ~ 32 N・m

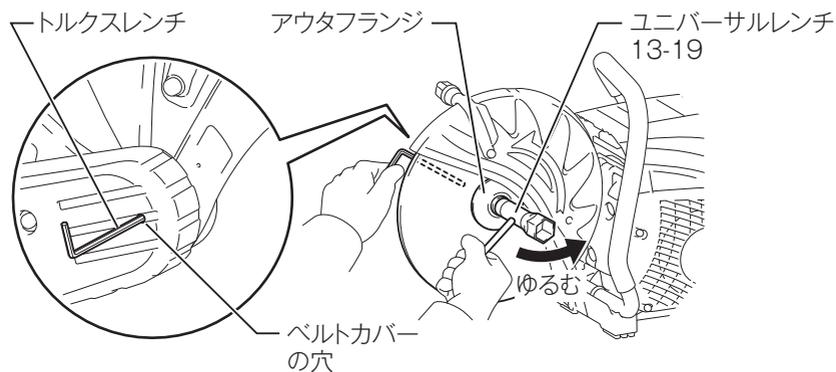


4. トルクスレンチをベルトカバーの穴からはずし、軸の固定を解除します。

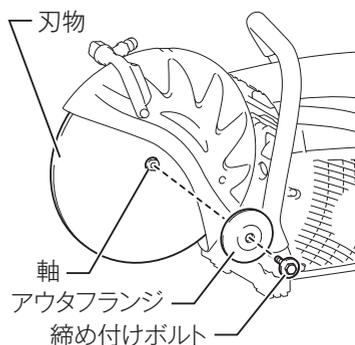
ご使用前の準備

■ 刃物（別販売品）の取りはずし方

1. ベルトカバーの穴にトルクスレンチを挿し込み、軸を固定します。



2. この状態でユニバーサルレンチ 13-19 を使って、締め付けボルトを左に回して、刃物、締め付けボルト、アウタフランジをはずします。



運転を始める前に

燃料

⚠ 警告

燃料の混合および給油を行うときは、必ず次の事項をお守りください。
引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない場所で行ってください。また通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。
- ・ 燃料給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・ 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

燃料の取り扱いには十分注意してください。

- ・ 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。
- ・ ガソリンだけでは絶対に運転しないでください。故障の原因になります。
- ・ 長期間保管して古くなった燃料は使用しないでください。故障の原因になります。

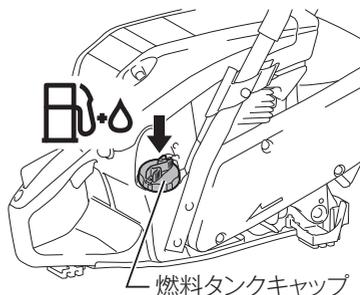
■ 燃料について

- ・ 本機に使用する燃料は、無鉛ガソリンと2ストローク専用エンジンオイル（マキタ純正2ストローク専用エンジンオイルまたはJASO分類FCグレード以上のオイル）を25～50：1の割合で混ぜた混合燃料です。
- ・ 無鉛ガソリンに混ぜるオイルの種類や混合する割合が異なると、エンジン不調の原因になりますので指定されたオイルを指定された割合で混合してください。

ガソリン	オイル
 1	 25～50
約 1000 mL (1L)	約 20 ～ 40 mL

■ 燃料の給油

- ・ 燃料タンクキャップが上になるように本機を置いて、燃料タンクキャップをはずしてください。
- ・ 入れすぎてこぼさないように注意して、燃料を給油してください。給油が終わりましたら、燃料タンクキャップを手でしっかり締めてください。



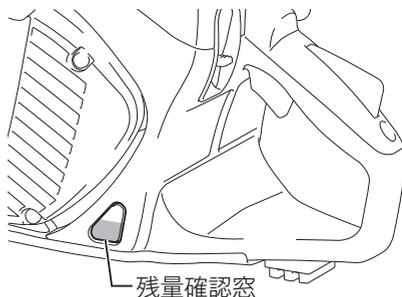
運転を始める前に

注

- ・ 燃料タンクキャップを開けるときは、ゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
- ・ 燃料タンクにゴミなどの異物が入りますと、故障の原因になります。ゴミなどが入らないように気を付けてください。

燃料の残量確認方法

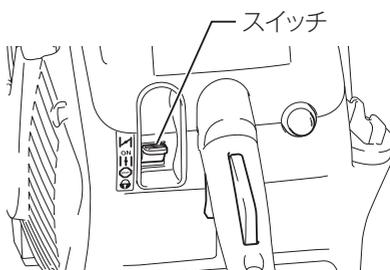
- ・ 本機の左側面に燃料の残量確認窓があります。(図参照)
燃料の残量が少ないときは給油を行ってください。



スイッチの操作

- ・ 本機のスイッチは4段階に切り替えるようになっています。

チョーク	
運 転	
停 止	
ロック	



- ・ スイッチの機能をよく理解してお使いください。

運転を始める前に

エンジン始動方法

⚠ 警告

燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3 m 以上離れてください。

- ・ 引火、火災の原因になります。

エンジンの排ガスは有毒です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。

- ・ 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。

始動後、音、におい、振動などの異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、点検を行ってください。

- ・ そのまま使用しますと、事故の原因になります。

エンジンを始動させると刃物が回転します。エンジン始動前に刃物類が地面や、その他の障害物に触れていないことを確認してください。

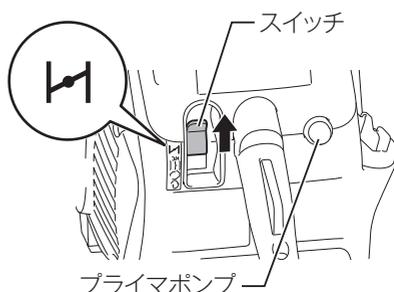
- ・ 刃物類が障害物に触れていると事故やけがの原因になります。

■ エンジンが冷えている場合の始動

1. 本機を平坦な地面に置きます。

2. 燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押します。

- ・ 7～10 回程度で燃料がキャブレタに上がってきます。
- ・ 押しすぎても必要以上の燃料は燃料タンクに戻りますので問題ありません。



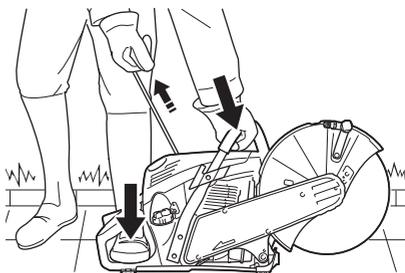
3. スイッチを「チョーク」の位置にします。

運転を始める前に

4. リヤハンドルを足で押さえ、片手でフロントハンドルをしっかりと押さええます。

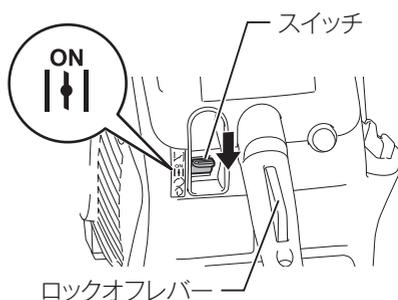
5. スタータハンドルを勢いよく引き出し、最初の爆発音がするまで繰り返します。

- ・ エンジンが始動するまで繰り返してください。(ローブはいっぱい引ききらないでください。)
- ・ 引いたスタータハンドルは、その位置から手放さずに戻してください。



6. 最初の爆発音がしたら、スイッチを「運転」の位置に切り替えてください。

7. 再び、本機をしっかりと押さえ、スタータハンドルを勢いよく引いてください。



⚠ 注意

爆発音が出てエンジンが止まった場合、または始動したがスイッチを操作する前に止まった場合は、スイッチを「運転」にし、再びスタータハンドルを引いて始動させてください。

スイッチを「チョーク」の位置にしたまま、スタータハンドルをいつまでも繰り返して引き続けると燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。

- ・ 燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずしてスタータハンドルをすばやく数回引いて余分な燃料を出してください。またスパークプラグの電極部を乾かしてください。

無負荷高速運転(空ふかし)はエンジンの寿命が短くなるのでむやみに行わないでください。

運転を始める前に

■ 暖機運転

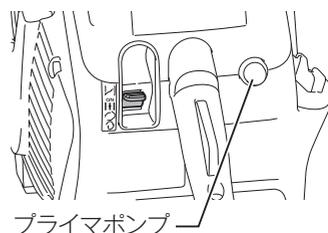
- ・ エンジンが始動したらロックオフレバーを押さえたまま1～2分間スロットルを引いて、中速域一定回転を保持した状態で暖機運転してください。
- ・ エンジンの回転が安定し、低速から高速回転にしたときに、滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。

■ エンジンが暖まっている場合の始動

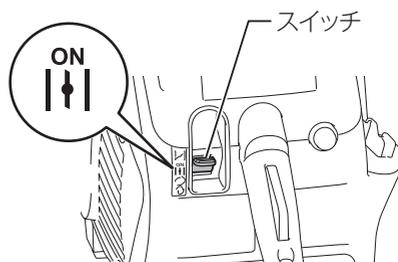
1. 本機を平坦な地面に置きます。

2. 燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押します。

- ・ 7～10回程度で燃料がキャブレタに上がってきます。
- ・ 押しすぎても必要以上の燃料は燃料タンクに戻りますので問題ありません。



3. スイッチを一度「チョーク」の位置にしてから、「運転」の位置に戻します。

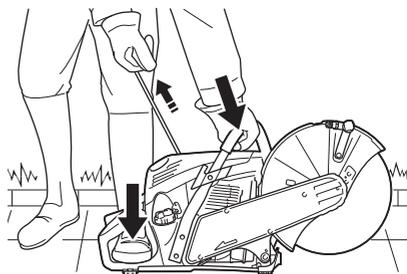


運転を始める前に

4. リヤハンドルを足で押さえ、片手でフロントハンドルをしっかり押さええます。

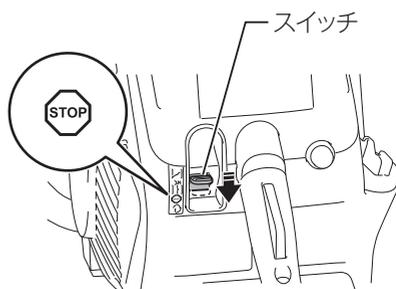
5. スタータハンドルを勢いよく引っ張ります。

- ・ エンジンが始動するまで繰り返してください。（ロープはいっぱい引ききらないでください。）
- ・ 引いたスタータハンドルは、その位置から手放さずに戻してください。

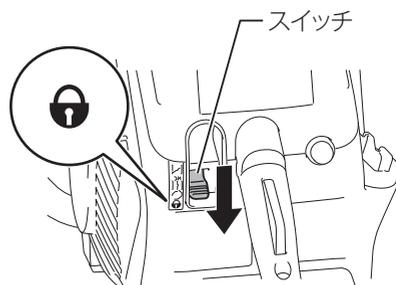


停止・ロック

- ・ エンジンを停止させるときは、スロットルを戻し、スイッチを「停止」の位置にしてください。



- ・ ロックさせるときは、スロットルを戻し、スイッチを「ロック」の位置にしてください。



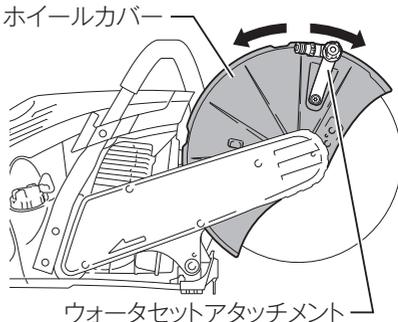
運転を始める前に

ホイールカバーの調整

⚠ 警告

ホイールカバーの調整を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

- ・ エンジンをかけたまま行くと、不意に刃物が回りだす恐れがあり、事故の原因になります。
- ・ エンジンを停止した直後は、エンジンが高温となっているため、不用意に触るとやけどの原因になります。
- ・ ホイールカバーは矢印方向に動かすことができます。



注

- ・ ホイールカバー調整の際、刃物に手が触れないように注意してください。
- ・ ウォータセットアタッチメントを持ってホイールカバーを動かさないでください。

運転を始める前に

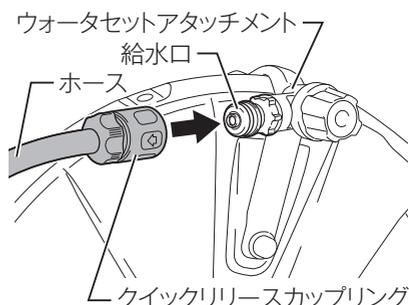
ウォータセットアタッチメント

⚠ 警告

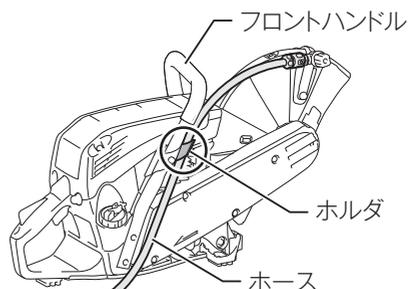
ウォータセットアタッチメントにホースの取り付け、取りはずしを行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

- ・ エンジンをかけたまま行くと、不意に刃物が回りだす恐れがあり、事故の原因になります。
- ・ エンジンを停止した直後は、エンジンが高温となっているため、不用意に触るとやけどの原因になります。

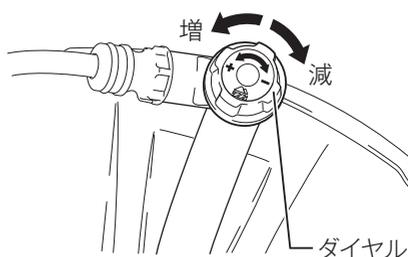
- 1.** クイックリリースカップリングをウォータセットアタッチメントの給水口に挿し込みます。



- 2.** ホースをフロントハンドルパイプのホルダに取り付けます。



- 3.** 給水量はウォータセットアタッチメントのダイヤルで調整できます。



作業方法

⚠ 警告

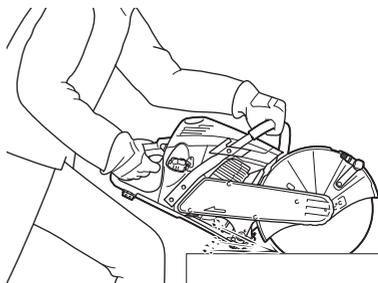
切断中に本機をこじたり、強く押さえたり、無理な作業をしないでください。
・ 本機に強い反発力を生じたり、また刃物が破損したりし、けがの原因になります。

1. エンジンを始動します。(手順は25ページ参照)

2. ハンドルを両手でしっかり握り、中速で切断材料に最初の切り込みを入れます。

3. 次にスロットルを全開にして、本機を静かに引きながら（または、押しながら）まっすぐ切断します。

4. 切断が終了しましたらスロットルを戻し、スイッチを「停止」の位置にしてエンジンを停止させます。



保守・点検について

⚠ 警告

点検整備を行うときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。またスパークプラグからプラグキャップをはずしてください。

- ・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。

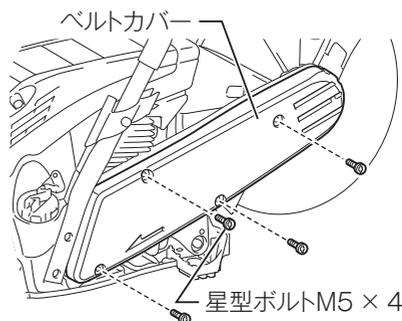
注

- ・ 点検整備を行うときは、本機の汚れを落とし、ゴミやほこりのかからないきれいな場所で行ってください。

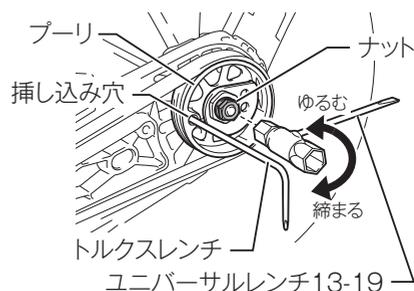
V ベルトの張り調整

- ・ 切断作業中に刃物が簡単に停止するような場合は、V ベルトの張り具合が弱くなっていることが考えられます。このような場合は、次の手順で調整してください。

1. ベルトカバーの星型ボルト M5 をトルクスレンチでゆるめ、ベルトカバーを取りはずします。



2. プーリの挿し込み穴にトルクスレンチを挿し込みシャフトロックします。



3. ユニバーサルレンチ 13-19 でナットを回し V ベルトの張りを調整します。

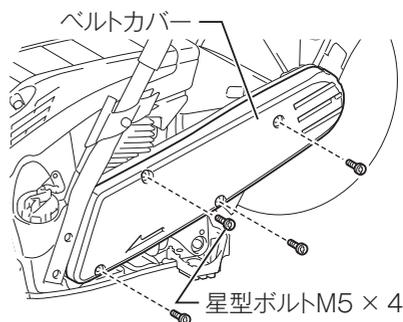
4. 調整後、トルクスレンチをはずしシャフトロックを解除し、ベルトカバー、星型ボルト M5 の順に組み付けます。

注

・Vベルトの張りを調整しても、作業中に刃物が簡単に停止するような場合は、Vベルトを点検し、必要があれば新品と交換してください。(手順は 33 ページの「Vベルトの取り替え」参照)

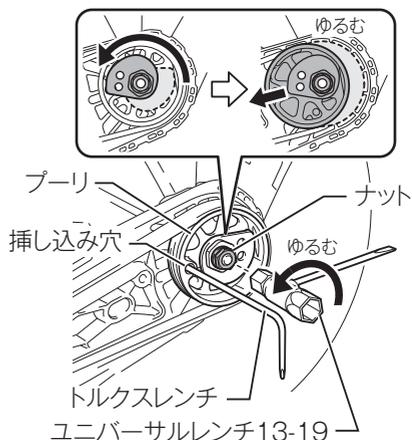
Vベルトの取り替え

1. ベルトカバーの星型ボルト M5 をトルクスレンチでゆるめ、ベルトカバーを取りはずします。



2. プーリの挿し込み穴にトルクスレンチを挿し込みシャフトロックします。

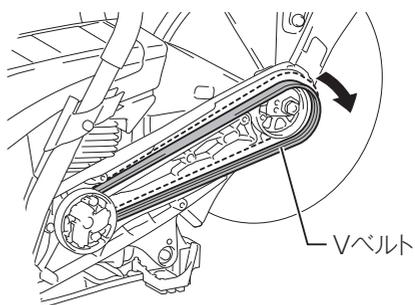
3. ユニバーサルレンチ 13-19 でナットをゆるめると、右図中の吹き出しのようにVベルトの張りがゆるみます。



保守・点検について

4. 古いVベルトを取り除き、新しいVベルトを取り付け、取りはずしと逆の手順でVベルトを張ります。
5. トルクスレンチをはずしシャフトロックを解除し、ベルトカバー、星型ボルト M5 の順に組み付けます。

Vベルト（交換用）
部品番号：424798-9



燃料タンクフィルタの清掃と取り替え

⚠ 警告

燃料タンクフィルタの清掃を行うときは、必ず次の事項をお守りください。
引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない場所で行ってください。また通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。
- ・ エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・ 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

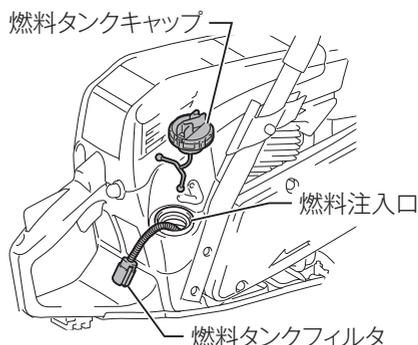
燃料の取り扱いには十分注意してください。

- ・ 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。
- ・ 燃料タンクフィルタがつまるとエンジン不調やエンジン故障の原因になります。定期的に点検してください。

1. 燃料タンクキャップをはずして燃料を抜いてください。

2. 次に針金などを使ってフィルタを燃料注入口から引き出し、ガソリンでよく洗ってください。

3. 汚れがひどいときは、燃料管からフィルタを引き抜いて新品と交換してください。



燃料タンクフィルタ
部品番号：163499-1

フィルタの清掃と取り替え

⚠ 警告

フィルタの清掃を行うときは、必ず次の事項をお守りください。
引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない場所で行ってください。また通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。
- ・ エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

⚠ 注意

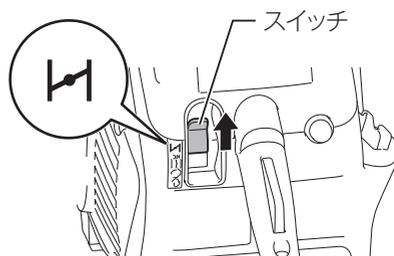
作業環境によってフィルタ類に付着する塵埃が多い場合は、1日に数回掃除します。

フィルタ類がつまっていると、エンジンを始動したりその回転数を上げたりすることが困難、または不可能になることがあります。

- ・ フィルタ類にオイルが付着したまま運転を続けると、エアクリーナ内のオイルが外にたれ、オイル汚れの原因になります。
- ・ フィルタ類を清掃する際は、フィルタ類を地面など汚れた所に置かないでください。
- ・ フィルタ類が汚れていると、塵埃を吸い込み、エンジン内部が傷つき、エンジン不調の原因となります。
- ・ フィルタ類の洗浄にはガソリンを使用しないでください。
- ・ ガソリンを使用すると、フィルタが傷む原因となります。

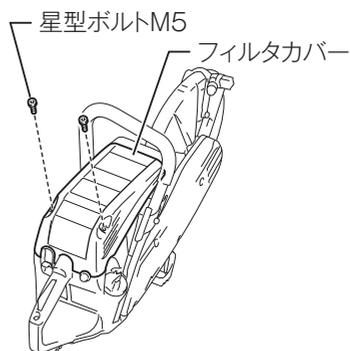
- ・ フィルタが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。作業終了後には、次の要領で清掃してください。

1. スイッチを「チョーク」の位置にしてください。

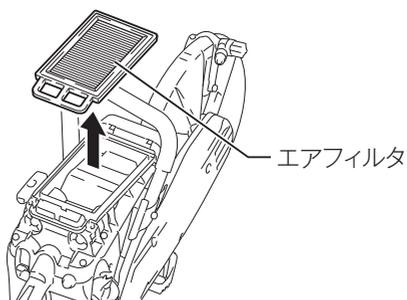


保守・点検について

2. トルクスレンチで星型ボルト M5 をはずし、フィルタカバーを取りはずします。



3. エアフィルタをはずします。



4. エアフィルタは、軽く叩いてゴミやほこりを落としてください。

5. エアフィルタの清掃が終わりましたら、元に戻してください。組み付けは取りはずしと逆の手順で行ってください。

注

- エアフィルタの清掃は絶対に水洗いおよびコンプレッサを使用しないでください。
- エアフィルタはガソリンなどの油で洗わないでください。
- 使い古したエアフィルタや破損したエアフィルタは、新品と交換してお使いください。

エアフィルタ
部品番号：424789-0

保守・点検について

スパークプラグの点検と整備

⚠ 警告

始動時および使用中には、スパークプラグやプラグコードに手を触れないでください。

- ・ 感電する恐れがあります。

⚠ 注意

スパークプラグ点検整備時、シリンダ内の残留ガスに引火する場合がありますので、スパークプラグ取り付けネジ部にはスパークプラグを接触させないでください。

また、スパークプラグの金属部に触れながらスタータハンドルを引かないでください。

- ・ やけどの原因になり、また感電する恐れがあります。

- ・ スパークプラグは指定のもの（NGK BPMR 7A）を使用してください。

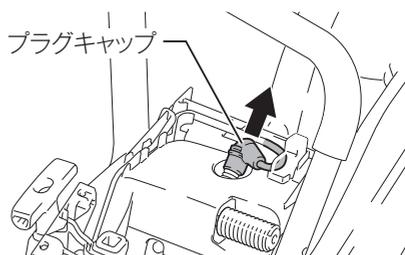
■ スパークプラグの取りはずし

1. フィルタカバー、フードの順で取りはずしてください。（手順は 36 ページの「フィルタの清掃と取り替え」参照）

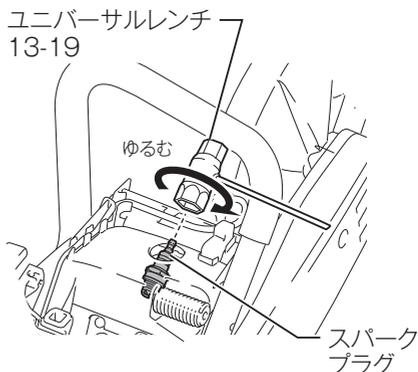
注

- ・ エアフィルタはフードから取りはずす必要はありません。

2. プラグキャップをはずします。

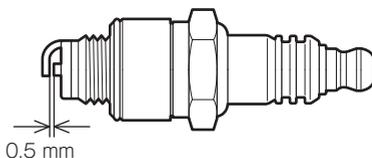


- 3.** ユニバーサルレンチ 13-19 でスパークプラグをはずします。



■ スパークプラグの点検・整備

- 1.** 電極の隙間が 0.5 mm になっているか点検してください。もし広がりすぎたり、狭すぎたりする場合は調整してください。
- 2.** カーボンが溜まったり、汚れたりしている場合はワイヤーブラシなどできれいにしてから取り付けてください。またひどく摩耗したり、焦げていたりするものは新品と交換してください。



スパークプラグ (NGK BPMR 7A)
部品番号：168517-0

■ スパークプラグの取り付け

- ・ スパークプラグ点検後は、取りはずし時と逆の手順で取り付けてください。

アイドリングの調整

- ・ キャブレタは工場出荷時に調整済みです。アイドリングの回転数以外は調整しないでください。もし調整が必要になりましたら、お近くの当社営業所にお申し付けください。

正常時：

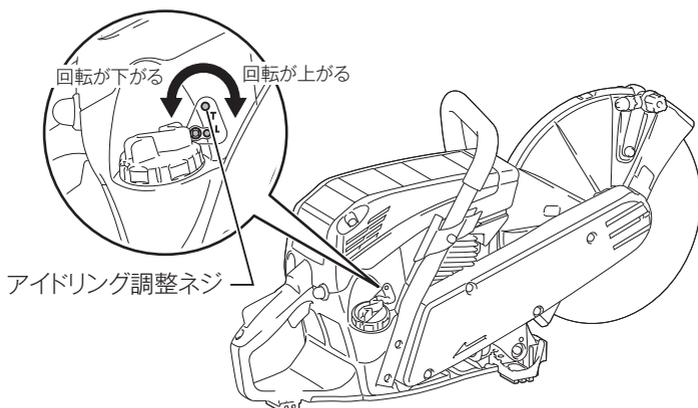
暖機運転後にスロットルレバーを戻し、アイドリング状態した際、刃物が停止する。

異常時：

暖機運転後にスロットルレバーを戻し、アイドリング状態にした際、刃物が回り続ける。

- ・ 異常があるときは次の要領でアイドリング調整を行ってください。

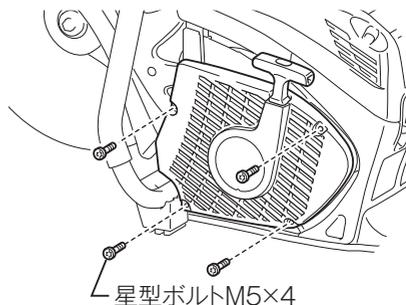
- 1.** 図のアイドリング調整ネジを回して調整します。
- 2.** 調整しても改善されない場合や、調整が困難な場合は、お近くの販売店、または当社営業所までお申し付けください。



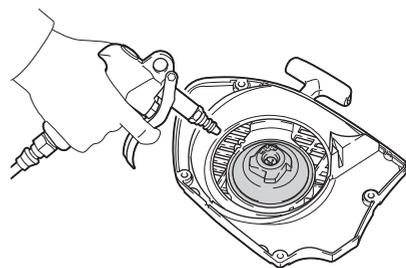
スタータの清掃

- ・ スタータロープが元の位置に戻らないなど、スタータが正常に作動しない場合はスタータとクラッチを清掃します。

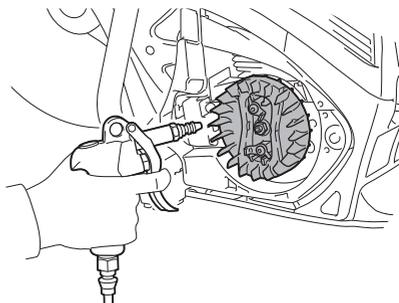
- 1.** スタータカバーの星型ボルト M5 をはずします。



- 2.** スタータの清掃をします。



- 3.** クラッチの清掃をします。



- 4.** 清掃後、スタータカバーを取り付けます。

- 5.** スタータカバーを星型ボルト M5 でしっかり締め付けます。

保守・点検について

メンテナンス表

項目		運転時間							記載ページ
		作業前	給油後	10時間毎 毎日 (使用後)	毎月	3か月毎	200時間	500時間	
締め付け部品 (ボルト・ナット)	点検	○							—
燃料タンク	清掃 / 点検	○							—
	燃料を抜く							○ *2	43
Vベルト	点検 / 調整	○							32
スロットルレバー	機能チェック		○						—
停止スイッチ	機能チェック		○						28
刃物	点検	○		○					10
アイドリング時の速度	点検 / 調整			○					40
エアフィルタ	清掃				○				36
	交換						○		
スパーク プラグ	点検 / 調整			○					38
冷却風通路および シリンダフィン	清掃 / 点検			○					—
燃料パイプ	点検			○					
	交換						◎ *1		
燃料タンクフィルタ	清掃 / 交換					○			35
キャブレタ	燃料を抜く							○ *2	43

*1 200 時間点検は販売店、または当社営業所にご用命ください。

*2 燃料タンクの燃料をすべて抜いた後、エンジンを回してキャブレタから燃料を抜いてください。

格納方法

⚠ 警告

燃料は抜くときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない所で行ってください。またタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。

⚠ 注意

長期間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタから燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に保管してください。

燃料が古くなると通常より始動が困難になります。長期間保管した燃料は使用を避け、新しい燃料と変えてください。(約 1 か月が目安です。)

- 1.** 燃料タンクキャップをゆっくりはずし、燃料を抜き、燃料タンクを空にします。
 - ・ この際、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。

注

- ・ 抜き取った燃料は燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管してください。

- 2.** 燃料タンクフィルタを針金などを使い、給油口から引き出します。
- 3.** プライマポンプ内の燃料がなくなるまでプライマポンプを押し、燃料タンク内に出てきた燃料を抜き取ります。
- 4.** 燃料タンクフィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けます。
- 5.** エンジンが停止するまで空運転を行います。
- 6.** エンジンが停止したら、スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしめます。(手順は 38 ページ参照)

7. スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせ、スパークプラグを取り付けてフィルタカバーまで組み付けてください。

本機の保管姿勢

- ・ 本機を保管するときは、本機の給油口が地面と水平になるようにしてください。

故障かな？と思ったら

修理をお申し付けいただく前に、以下の対応方法をお試してください。

不具合の状況	原因	対応
エンジンが始動しない	プライマポンプの作動不足	7～10回押してください。
	スタータロープの引き速度が遅い	勢いよく引き出してください。
	燃料切れ	燃料を給油してください。
	燃料タンクフィルタの目詰まり	清掃してください。
	燃料チューブが折れている	折れ目を直してください。
	燃料が古い	燃料が古くなると通常より始動が困難になります。新しい燃料と変えてください。(約1か月が目安です)
	燃料の吸い込みすぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スイッチを「チョーク」の位置にして、スロットルを中速から高速にし、スタータハンドルをエンジンが始動するまで引いてください。始動しますと刃物が回転します。十分注意してください。 ・ それでも始動しないときは、スパークプラグをはずし、電極を乾燥させ、元通り組み付けて、同様の始動操作を行ってください。
	プラグキャップがはずれている	確実に取り付けてください。(手順は38ページ参照)
	スパークプラグの汚れ	清掃してください。(手順は38ページ参照)
	スパークプラグ電極の隙間の異常	隙間を調整してください。(手順は38ページ参照)
	スパークプラグのその他の異常	交換してください。(手順は38ページ参照)
	キャブレタの異常	点検整備をお申し付けください。
	スタータロープが引けない	点検整備をお申し付けください。
駆動系の異常	点検整備をお申し付けください。	
クラッチ周辺部の汚れ	クラッチ周辺部を清掃してください。(手順は41ページ参照)	

故障かな？と思ったら

不具合の状況	原因	対応
エンジンは作動するが、刃物が回転しない ↓ 直ちにエンジンを停止する	クラッチの損傷	点検整備をお申し付けください。
	Vベルトの張力不足	Vベルトの張りを確認してください。(手順は 32 ページ参照) Vベルトに損傷があれば交換してください。(手順は 33 ページ参照)
	刃物締め付けボルトがゆるんでいる	しっかり締め付けてください。(手順は 20 ページ参照)
	刃物の内径が軸に合わない	リング 20 を使用してください。(手順は 21 ページ参照)
	駆動系の異常	点検整備をお申し付けください。
エンジンがすぐ止まる エンジンの回転が上がらない	暖機不足	暖機運転してください。(手順は 27 ページ参照)
	エンジンが暖まっているのにスイッチを「チョーク」の位置にしている	スイッチを「運転」  の位置にしてください。
	燃料タンクフィルタの目詰まり	清掃または交換してください。(手順は 35 ページ参照)
	エアクリーナの汚れ、目詰まり	清掃してください。(手順は 36 ページ参照)
	キャブレタの異常	点検整備をお申し付けください。
	駆動系の異常	点検整備をお申し付けください。
本機が異常に振動する ↓ 直ちにエンジンを停止する	刃物の破損、曲がり、または摩耗	刃物を交換してください。(手順は 20 ページ参照)
	刃物締め付けボルトがゆるんでいる	しっかり締め付けてください。(手順は 20 ページ参照)
	駆動系の異常	点検整備をお申し付けください。
刃物が直ちに止まらない ↓ 直ちにエンジンを停止する	アイドルリング速度が速すぎる	調整してください。(手順は 40 ページ参照)
	スロットル関係連結部品がはずれている	点検整備をお申し付けください。
	駆動系の異常	点検整備をお申し付けください。

故障かな？と思ったら

不具合の状況	原因	対応
エンジンが止まらない ↓ エンジンをアイドリングにして、スイッチを「チョーク」  の位置にする	コネクタがはずれている 電気系の異常	確実に組み付けてください。 点検整備をお申し付けください。
一旦本機を停止したのちに再始動しない	エンジンの温度上昇によりキャブレタの燃料量に変化し、始動しづらい状態になっている	1. プライマポンプを7～10回ほど繰り返し押し、燃料がプライマポンプに入るか確認してください。 2-1. プライマポンプに燃料が入る場合 スイッチを一度「チョーク」  の位置にしてから、「運転」  の位置に戻し始動操作を行ってください。 2-2. プライマポンプに燃料が入らない場合 ① 涼しい場所でエンジンを冷ましてください。 ② 燃料がプライマポンプに入るようになりますので、2-1と同じ手順で始動操作を行ってください。

その他、本機に不具合や異常がある場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に点検整備をお申し付けください。

ご修理の際は

- ・ 修理はご自分でなさらず、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

主要機能

項目		モデル	EK6100
エンジン	型式	単気筒空冷 2 ストローク ガソリンエンジン	
	排気量	60.7 mL	
	作業回転数	9,500 min ⁻¹ (回転 / 分)	
	キャブレタ	ダイヤフラム式	
	点火方式	電子式	
	スパークプラグ	NGK BPMR 7A	
	始動方式	リコイル方式	
	クラッチ	自動遠心式	
	燃料混合比	25 ~ 50 : 1 (2 ストローク専用エンジンオイルまたは、 JASO 分類 FC 級以上のオイル使用)	
	燃料タンク容量	0.7 L	
刃物回転数		5,100 min ⁻¹ (回転 / 分)	
使用できる刃物	ダイヤモンド ホイール	外径	305 mm
		内径	20 mm、22 mm、25.4 mm、30.5 mm
最大切り込み深さ		110 mm	
本機寸法 (全長×幅×全高)		675 mm × 255 mm × 362 mm	
質量 (刃物無し)		8.5 kg	
振動 3 軸 合成値	前ハンドル	3.0 m/s ²	
	後ハンドル	3.6 m/s ²	

- ・ 振動 3 軸合成値は、JIS B7762-12:2006 規格に基づき測定。
- ・ 振動 3 軸合成値についての詳細は JEMA [(社) 日本電機工業会] ウェブサイト：<http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html> をご参照ください。
- ・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

⚠ 警告

ダイヤモンドホイール専用機のため切断砥石は使用できません。

- ・ 最高周速度 80 m/s 以上のダイヤモンドホイールを使用してください。

株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

881B71B6

IWT